

2025年度(令和7年) 調査・研究等への助成一覧

総助成額 77,258,000円

NO	申請者	申請活動名
1	Popo ea Pele	壁に息づく伝統 — レソトのLitema技法をめぐる調査・創作リサーチ
2	大和楓	写真と身体でたどる戦争：シンガポールの捕虜収容所
3	岩井 優	インド西海岸原子力発電所予定地における風土の感性的調査研究
4	近藤愛助	「記憶の引き継ぎ」をテーマにしたアメリカ南西部の日系人強制収容所とマンハッタン計画のリサーチ・制作プロジェクト
5	仮設と検証	展覧会設営技術に関するデジタルアーカイブズ構築化とシェア方法の構築
6	大小島真木（アートユニット）	中南米・南米における土着的信仰とキリスト教の混淆状況及びそれに基づく祝祭表現の調査
7	小山 渉	「ヨーロッパにおける精神疾患・精神病院の近代史に関するリサーチと作品制作」
8	「爆心へ」実行委員会	東北地域の〈爆心〉を探しに：第2回「爆心へ/To Hypocenter」芸術祭開催に向けての事前調査
9	是恒さくら	Breaching the Past——日本・韓国・ノルウェーをわたる捕鯨の記憶を結ぶ
10	小鷹拓郎	祈りと呪いに関するフィールドワーク
11	湊茉莉	日本・東海地方の地形・地質及び仏アルプス山脈における地層の成立の観察・調査、作品制作
12	村上華子	写真の起源の再生成 — ニエプスの散逸したアーカイブとAI
13	浅野友理子	東アジアの山間地域における植物の利用方法と女性の手仕事の調査
14	佐藤朋子	オバケ東京のためのインデックス：東アジア調査・アーカイブプロジェクト
15	原 千夏	長崎県五島市奈留島における潜伏キリシタン文化の調査と研究
16	梅村尚幸	美術家から見た建築家との協働

17	山田晃子	近藤聡乃新作アニメーション作品による展覧会に向けた調査研究
18	小島ひろみ	「ヒロシマ」におけるポスト・アーカイブの可能性－被爆遺物を写真作品で残す意義
19	ロード・ナ・ディト	日比韓のアートマネージャーによる国際研究会議とライティング・ワークショップの開発
20	京都市美術館	川田知志作品収蔵プロジェクトの記録
21	町田恵美	北米・南米における沖縄系移民アーティストの調査
22	株式会社NTT ArtTechnology	ICCコレクション修復・再展示に向けた予備調査
23	ドント・フォロー・ザ・ウィンド	Don't Follow the Wind
24	民具ラボ	民具とアートとアーカイブの研究会（民具ラボ）
25	有限会社 遊工房	AIRの現代社会における無限の可能性を可視化する試みー遊工房アートスペース
26	鴻野わか菜	日本現代美術における記憶 ウクライナとの共同研究
27	小川希	日本におけるオルタナティブ・スペースの成り立ちとその実践について
28	西原珉	歴史的トラウマと文化的ケア：ユカタンの共同体におけるアートを介した回復の実践
29	宮路雅行	テクノロジーを含んだアート作品の低コストな制作技法の研究
30	三上真理子	「国境を越えた制作・流通・解釈のプロセスから考える〈日本〉現代美術の国際的拡張」
31	元永定正研究会	元永定正研究
32	池上 朋	移民や植民地をテーマにしたベルリンのアートセンターでの調査研修
33	木内真由美	ローカル・アーカイブから読み解く芸術と科学の融合：松澤有「量子芸術論」の生成過程
34	SARU Sokiso Archiving Research Unit	記録から資源へ：芸術教育を支えるアーカイブ実践
35	特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ	持続可能なアート・セクター実現のためのスタディ・ミーティングと梱包ワークショップ
36	小田井 真美	続けるための記録